



進捗報告

静的解析ツールで検出されなかったバグを含むコードクローンの特徴分析

発表者: 野口耕二郎



目次

- 背景, 目的
- 分析手法
- 進捗



背景, 目的

背景

- コードクローンの多くは無害であり, 全て除去するのは効率的でない
- 効率的にコードクローンを除去するにはどのようなコードクローンを優先的に除去すべきかを知る必要がある

目的・アプローチ

- 目的
 - どのようなコードクローンに不具合が混入しやすいかを明らかにする
- アプローチ
 - 不具合が混入したコードクローンのソースコードやコードクローンに結びついた不具合票の特徴を調査する

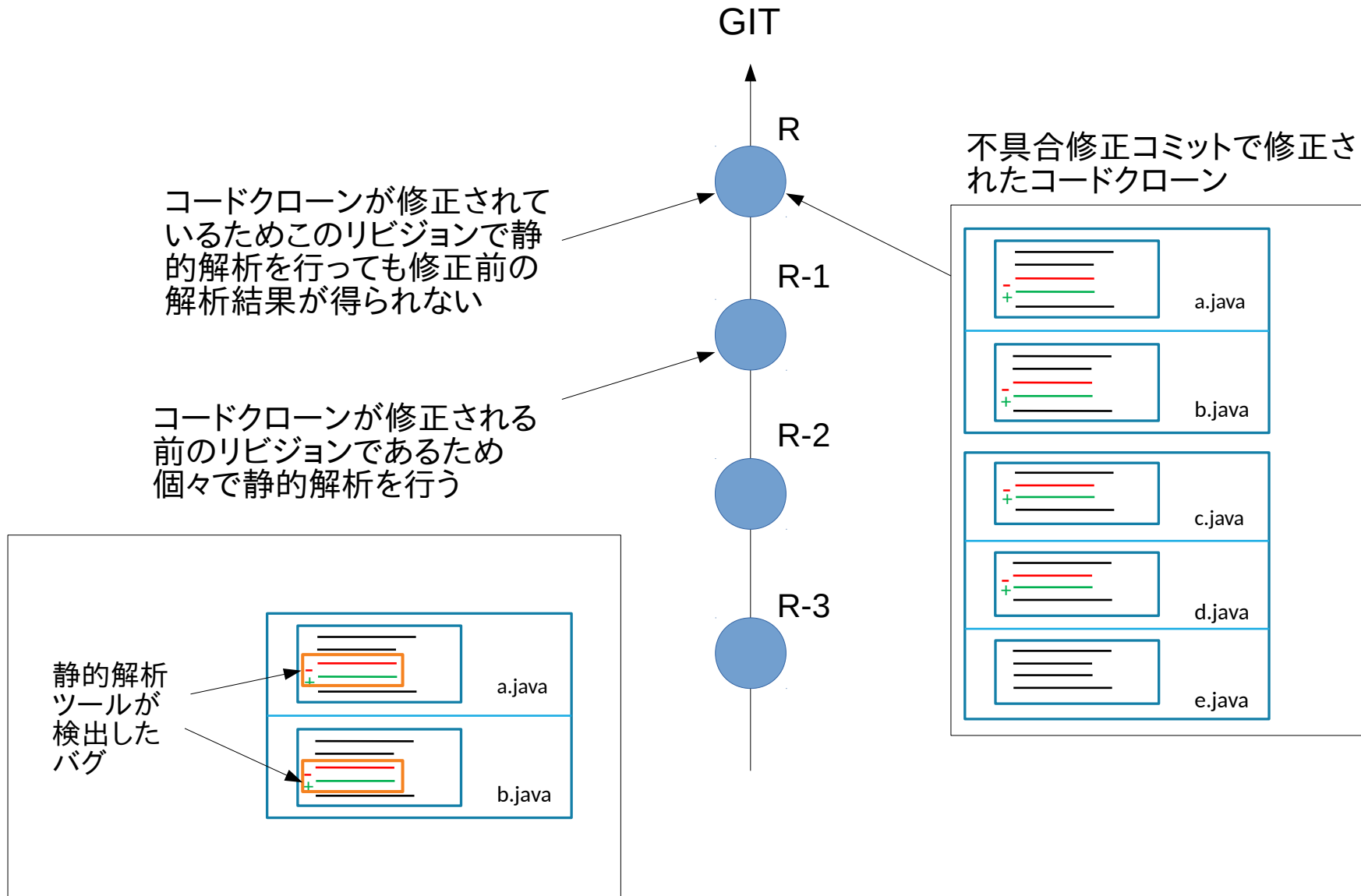


分析手法

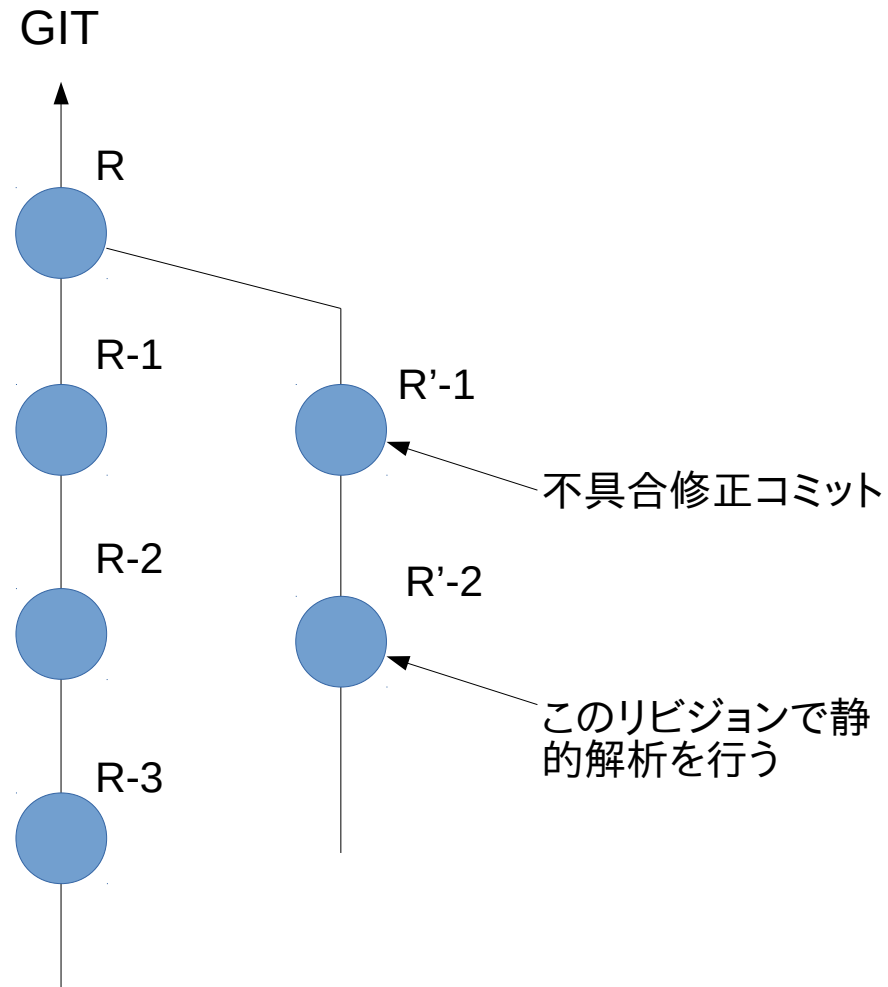
リサーチクエスト

- RQ1 : ITS で報告された不具合と静的解析ツールで検出された不具合の両方を含むクローンはどれだけ存在するか
- RQ2 : 静的解析ツールで検出されなかった不具合を含むクローンのソースコードの特徴はどのようなものか
- RQ3 : 静的解析ツールで検出されなかった不具合を含むクローンの不具合票の特徴はどのようなものか

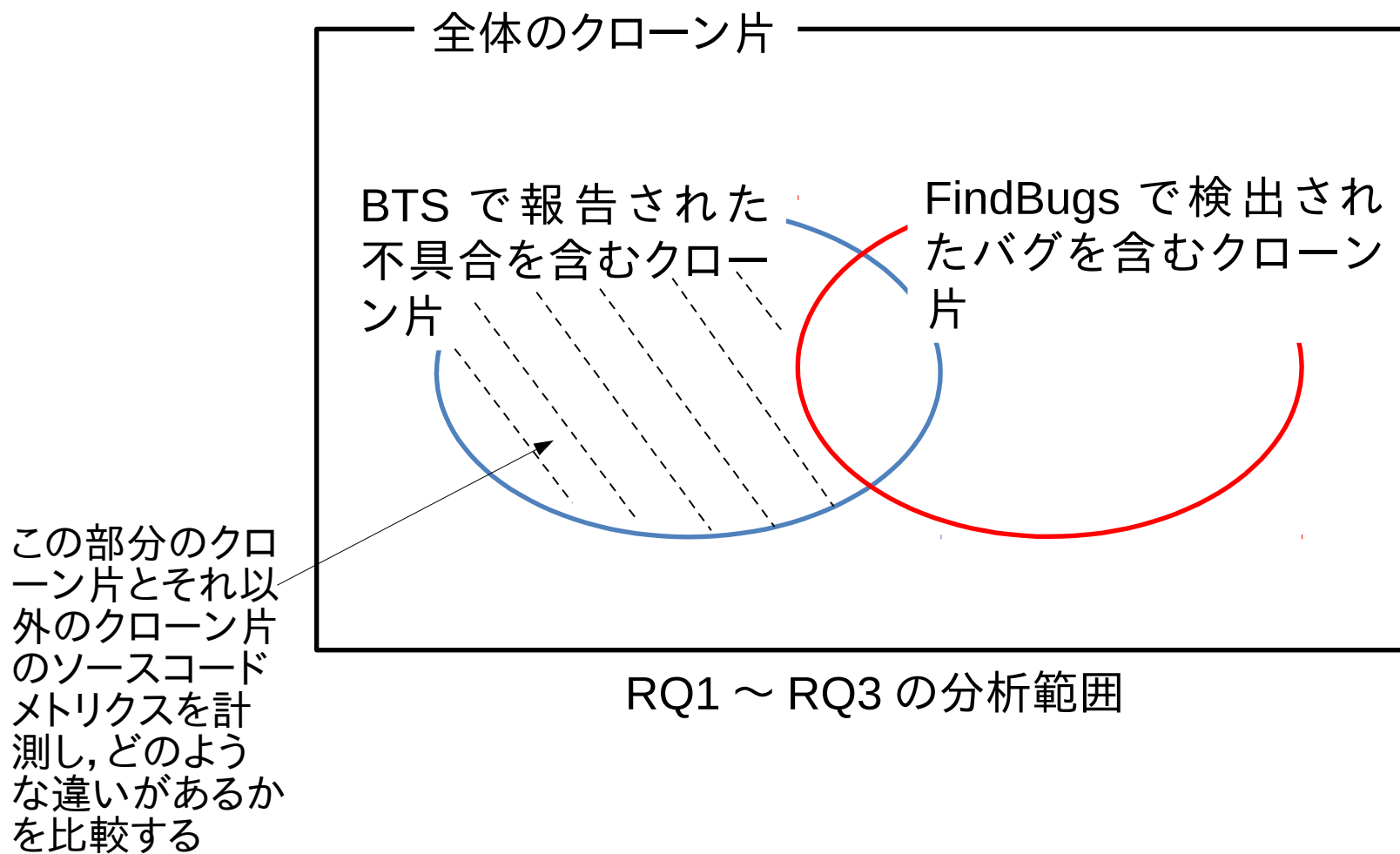
RQ1 の詳細



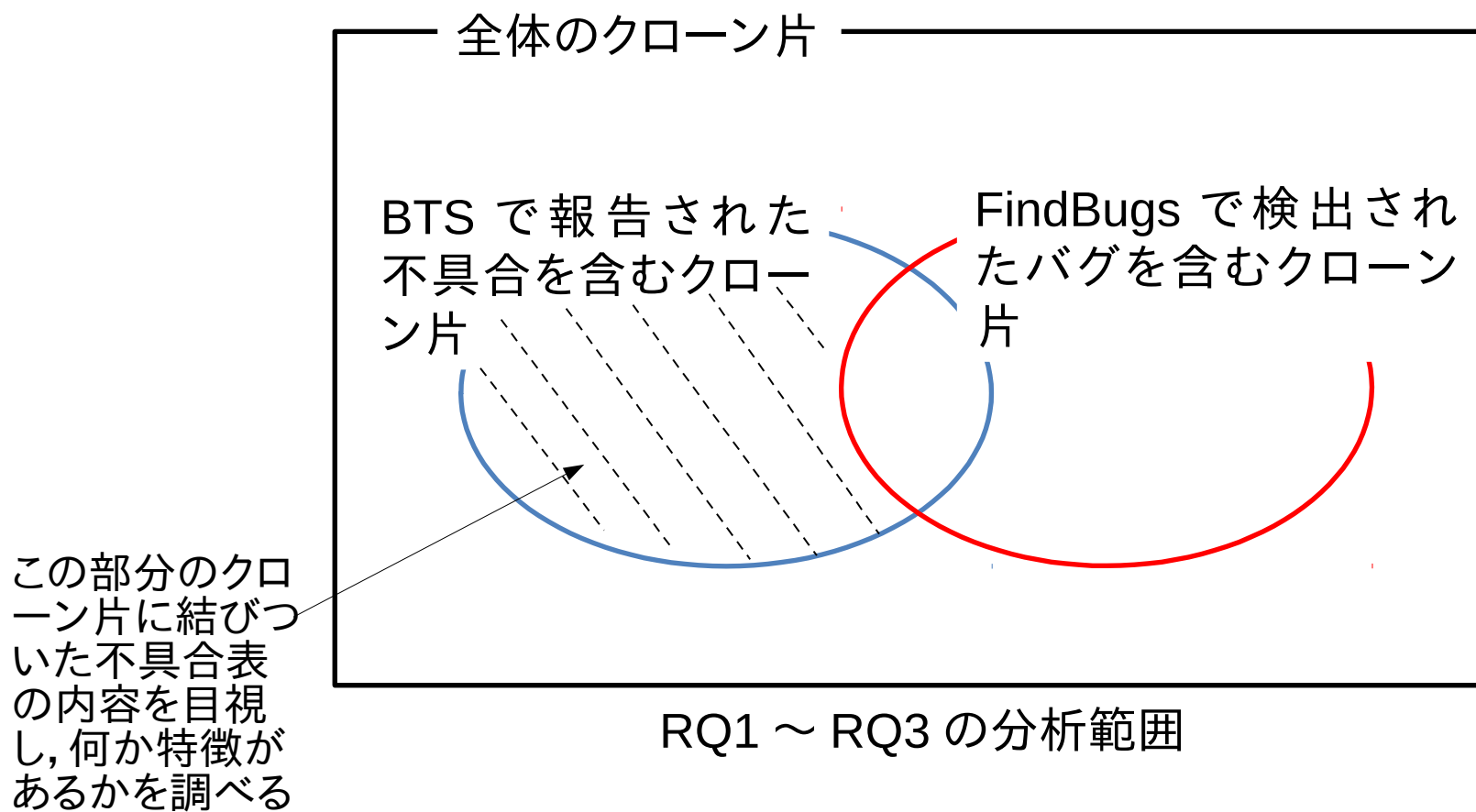
マージコミットの場合



RQ2 の詳細



RQ3 の詳細





進捗状況



現在の進捗状況

- RQ1 の途中
- 卒論の執筆途中